

かごしま

あいら

市議会だより



No.40 9月定例会

令和2年11月30日発行

支援・整備・復旧	4
特集 子ども館 地質調査費可決	6
市民目線で市政を質す	9
新庁舎建設を検証	14
センタク・プロジェクト	19

一般会計補正予算 10億3296万3千円 をめぐり激論!!



▲始良っ子たちの笑顔と健やかな成長を守りたい

待望の

学校トイレ
洋式化

注目の

子ども館

9月定例会を、8月31日から9月18日までの19日間の会期で開きました。
補正予算には、豪雨による災害復旧費をはじめ、新型コロナウイルス感染症対策として、事業者及び子育て等への支援と待望の小・中学校のトイレの洋式化・タブレット整備などのほか、注目子ども館建設に係る地質調査費が計上されました。

(3~5ページ)

一般会計予算審査特別委員会は、子ども館の地質調査費を除く修正案の動議を可決しましたが、多くの傍聴者が見守る最終本会議において、地質調査費を含む原案を可決しました。

(6~7ページ)

これにより、補正後の歳入歳出予算額は、423億6833万5千円となり、教育現場と子育て支援の環境整備がまた一步、前進することになりました。

その他、ふるさと応援基金条例など4条例の改正案と発議による意見書も可決しました。

(8ページ)

発議

「新型コロナウイルス感染症の影響に伴う地方財政の急激な悪化に対し地方財源の確保を求める意見書」を提出しました。

条例

- ふるさと応援基金条例の改正
- 公園条例の改正
- ふるさと移住定住促進条例の改正
- 衛生処理場環境保全対策委員会条例の改正

全ての議案と採決結果は、始良市ホームページをご覧ください。



地質調査費

可決

新庁舎建設事業

両支所庁舎建設に係る基本設計委託料

予算 2210万円

- 問** 各支所の予定面積はいくらか。
答 加治木支所が2560㎡
蒲生支所が1810㎡を予定している。

補正

夢と希望をはぐくむまちづくり予算



日本一 大楠どんと秋祭り

祭りは中止し、178万円減額
残り20万円でアーカイブを作成

- 問** アーカイブをどう活用していくのか。
答 30年の歴史を刻んだ写真等の募集を行い、次年度に1本の映像として作り後世に残していきたい。

※アーカイブとは
大切な、写真などの過去のデータを「完全に保存すること」。



鳥獣被害 防止対策事業

猿の前年度の調査結果から今後も
行動範囲の把握は必要と判断し、
GPS発信機の更新を実施
予算 431万円

- 問** 追い払いに使用可能な機器もあるはずだが、この機器は使えないのか。
答 今の機器は使えない。高度な機器もあるがGPS側の電池の消耗が激しいことが課題である。

消防指令室 Net 119通信

聴覚・言語機能障がい者等が円滑に
消防へ通報できるシステム
予算 93万円

- 問** 市民誰でも利用可能か。
答 119番通報が容易にできない方及びできない環境にある方は、事前に登録し、消防の承認を得る必要がある。

経済支援



事業者支援

事業継続支援金 (第2弾)

6月から8月までのいづれかの売上で、前年度同月比20%以上減少している事業所が対象
給付対象者1件に10万円
予算 8009万円

肉用牛農家支援

肉用牛農家経営継続支援金

消費の落ち込みで影響を受けている生産者を支援
●肥育農家…①対象者に10万円 ②子牛導入1頭当たり2万円
●繁殖農家…1頭当たり10万円(上限10万円)
予算 71万円

子育て支援

新生児に10万円を支給

国の特別給付金の対象外となった令和2年4月28日から令和3年4月1日までの新生児を対象に特別給付金を支給
予算 6007万円

教育環境整備

手洗い場増設(帖佐小・建昌小) トイレの洋式化(松原なぎさ小を除く全小・中学校)

コロナウイルス感染症対策として、安心して学校生活が送れるよう環境を整備
予算 1億2347万円
問 洋式化の目標が60%である。今後、どのように取り組んでいくのか。
答 今後は洋式化だけではなく、バリアフリーを目指した大規模改修も考えられている。

学習用タブレット整備

小・中学校全員に学習用タブレット整備及び情報 通信ネットワーク環境を整備

GIGAスクール構想の閣議決定を受け、校内LAN及び児童生徒一人1台の学習用タブレットを整備
予算 5億2742万円
問 台数が多いが、故障などの時のメンテナンスは大丈夫か。
答 業者が対応していくと報告は受けている。また予備もある。

教育整備



災害復旧



- 災害復旧委託料 18件
 - 災害復旧工事費 2件
- 予算 6080万円

林道の梅雨前線豪雨に伴う災害復旧事業

農地・農業用施設の梅雨前線豪雨に伴う災害復旧

- 災害復旧委託料 7件
 - 災害復旧工事費 9件
- 予算 6422万円

耕地災害復旧事業

土木施設の梅雨前線豪雨に伴う災害復旧

- 道路災害 4件
 - 河川災害 3件
- 予算 1億4711万円

災害復旧で公有財産購入費が出ている。なぜ購入に至ったのか。崩れた部分の復旧工法によっては、法面が民地に食い込んでしまったため。

議員間討議



● 論点1

新型コロナウイルス感染症対策のための予算は、的を射ているか。

主な意見

- 学校のトイレの洋式化が飛躍的に進む。今まで要望があったが出来なかったことであり、この事業が進むことは評価できる。
- 事業継続支援金の第2弾は、市内業者、商工団体等の声を聴き、制限を大幅に緩和したことは高く評価する。
- 新規オープンのお店など事業継続支援金の対象外となるところへの支援も考えるべきである。
- コロナ対策の予算で行った事業の効果をどう評価するか。予算効果の関係は複雑になるため、議会として評価するときの軸が必要である。

今後の施策について以下を付記しました。

〈付記事項〉

今以上にコロナ禍の情報収集を行い、スピード感をもって次の施策に活かすべきである。そして、我々議会もコロナ禍の状況把握に努め、その情報を担当課に伝えるなど政策に協力する。

● 論点2

GPS情報を活用した鳥獣被害防止対策は充分か。

主な意見

- 放送施設の活用や監視員制度なども導入すべきである。
- 効率よく追い払い活動ができるよう情報をしっかり出してほしい。
- 鳥獣被害対策は、これといった特効策がないと思えるぐらい難しい。
- 日に1回は情報が入るGPSシステムへグレードアップを検討すべきである。

事業をしっかりと進め、かつ、追い払い活動に関してもレベルアップをさらに図るべきとの共通認識に至りました。





地質調査費1000万6千円 **可決**

経緯

第一回定例会（3月）

当初予算では、加治木物産館の跡地に建設予定の「子ども館」地質調査費を除いた修正予算を可決し、子ども館建設はいつたん白紙としました。

第三回定例会（9月）

今回、この予算が修正予算に再度計上され、一般会計予算審査特別委員会で、慎重に審査しました。

指摘事項について

第一回定例会での指摘事項について、確認をしました。

① 事業手法について P P P方式（官民連携）を取りやめ直営で行う。

② 住民の声を聞く アンケート調査を実施した。

③ 施設の内容 施設の基本的な機能については、当初予算の説明から変更はない。

主な質疑

問 来年度の当初予算ではなく、今回の修正予算で計上した理由を説明せよ。

答 子育て支援策として重要な施設であるので、少しでも早く整備を進めるため、当初予算ではなく、今回予算計上した。

問 公共施設再配置計画では新しいものは作らないという方針だったが、整合性はとれるのか。

答 保育園の民営化に伴って、保育所の面積が公から民へ移る。子育て世代には、必要な施設であるため、整合性はとれる。

問 子ども相談支援センター「あいびあ」の相談件数を示せ。

答 延べ約4000件受けている。

議員間討議&意見

○本気度が感じられない。

○物産館をもっと利活用できるのではないか。

○核家族化や育児うつの問題等多くの課題があり、保護者には必要な施設である。

○物産館跡地ではなく、新加治木支所がいい。

○駐車場の広さなど検討が甘い。

○加治木地区にとってプラスと捉えて進めるべきである。

○必要な施設だからこそ、もう少し具体的計画を示すべきである。

修正案の提出

討議のあと、委員から動議が出され「子ども館」地質調査費1000万6千円を除く修正案の提出がありました。

一般会計予算審査特別委員会で、採決の結果、賛成多数で修正案を可決しました。





私は子ども
相談支援センター
「あいびあ」です！

議会の判断 特集 「子ども館」

最終本会議

一般会計予算審査特別委員会委員長報告で「子ども館」地質調査費を除いた修正案が示され、8人の議員が討論を行いました。

修正案に賛成討論

●谷口 義文 議員

この補正予算は、多額の市民の大切な税を行使する大事業に於いて、不透明な設置場所の選定方法、信憑性に欠ける資料を議会に示し、審査を託し、短期間での重要施設建設の判断、決断をせまら、結論を急ぐさまは、議会の総意が形成された結果とは到底思えない。甚だ、議会軽視であり、ましては市民軽視と言わざるを得ない。

●有川 洋美 議員

当初予算で否決した当議案を半年後の補正予算で認める根拠を確認できなかった。
本市はコロナ禍の影響で来年度の税収減は予測

できる。さらに財政難である上に、複合新庁舎建設という大型事業がある。子育て世代の相談業務のために必要なことは、箱物ではなく、人材確保、アウトリーチ、横の連携である。

●小山田 邦弘 議員

コロナ禍は未だ終息のいとぐちが見えず、今、建設に踏み切るのには疑問がある。また、今後は新たな公共施設は建設しないことを基本方針とする上位計画、公共施設再配置基本計画との整合性が認められない。

●堀 広子 議員

子ども館建設と公共施設再配置基本計画との整合性に疑問。実施計画での事業の先送りや採択された請願・陳情の未実施は、財政難を理由として、暮らしに影響が出ている。「建設計画を知らない」が7割もいる。市民と一緒に「積み上げ作り出す」プロセスが子ども館の維持継続につながる。時間をかけ市民にも十分

な説明、議論が必要である。

原案に賛成討論

●湯之原 一郎 議員

子ども相談支援センター「あいびあ」への相談件数が、年間4000件に上り、相談件数は増加傾向である。
「子ども館」の大きな役割として、子育て中の親が精神的に疲れ果て、育児に問題が生じるような深刻な状況に陥る前に、悩みや心配事を解消していく必要があることから、建設を急ぐべきと考える。

●吉村 賢一 議員

アンケートを見ると「子ども館ができたら利用したい」という方が72%いる。室内遊び場、大型遊具や活動型体験ルームの希望も多い。
遊具施設等を含めたサウンディング調査、周辺の民間・公共施設との協力関係構築、検討委員会に保護者や地元の代表及び有識者を入れ、財政や課題を調整し、基礎作り

を固めることを条件に賛成とする。

●湯元 秀誠 議員

子育て世帯アンケートの結果、お子さんの預かり、悩みや不安の相談は、配偶者だけに頼っている方々が多くある。
子どもに向き合う中で、様々な心境に陥り、自らの力で克服できない方も潜在的にあり、助けが必要な方を救える場となる。

●新福 愛子 議員

当初予算への計上から会派として賛成してきた。新市誕生以来、ようやく到来した、教育と文化のまち加治木地区への建設を歓迎したい。子ども館が加治木地区のみならず、始良市全体にとつての希望の館になることを願っている。

傍聴者の声

○子ども館の設置、是非お願したい。少子化の今、始良市の子ども館に期待する。

○女性の社会進出が当たり前となる中で、育児の悩み、課題を解消するために、市民が協力して環境を作っていくことが、重要であると感じた。

○子ども館を「箱物」という発想は違うと思う。新庁舎を取り止めてでも、子ども館は作るべきである。

○市民の税金を使用するならば、市民全員が納得した形で建設するべきだ。

○子育て問題がこれほど議題になっている始良市は希望が持てる。



ふるさとと納税制度見直し

今定例会には、条例改正案4議案が提案され、全ての議案を可決しました。

ふるさと応援基金条例の改正

ふるさと納税制度による寄付金は、一旦基金に繰り入れて、翌年度以降に各種事業の財源として使われていました。

寄付者の思いを迅速に反映させるために、寄付金を寄付者への返礼品贈呈などの制度運用の経費に充てられるようにし、寄付金の受領年度の事業に充てることができるよう改正しました。

問 補正予算の歳入で、ふるさと応援寄付金が2億5千万円の増額補正となっている。それに対応する条例改正か。

答 今年4月に新規参入した返礼品にヒット商品が生まれた。返礼品ほか送料などの経費の財源を確保する必要があり、予算運用の円滑化のための条例改正である。

公園条例の改正

**総合体育館冷暖房施設使用料金
1時間6200円**

年間経費から1時間当たりの運転費用を算定したうえで、受益者負担の原則及び公平性・公正性の確保の観点から、6200円に決定しました。

問 イベント等で入館料を徴収している場合、空調使用料の取り扱いはどのようになるか。

答 他市の状況を確認し協議した結果、入館料を徴収しているかどうかにかかわらず、使用料を徴収する。



▲総合体育館に設置された空調装置配管



▲ふるさと納税ポータルサイトに紹介してある始良市の返礼品の一例
※ご注意…始良市民は返礼品の対象にはなりません。



▲ふるさと納税寄付金の一部が大楠の保護事業に使われています

財産（消防ポンプ自動車）取得

契約及び財産の取得又は処分に関する条例の規定により、市役所分団に配置する消防ポンプ自動車の購入を議決しました。

●取得金額

2233万円

●契約の相手

森田ポンプ株式会社

●納期

令和3年3月26日



▲導入予定の消防ポンプ同型車

市民目線で 14人が市政を質す

一般質問者席
一般質問者席

一般質問とは、議員が市政全般にわたり、市の考えを問うものです。
掲載内容は、各議員本人が質問と答弁を要約したもので、すべての質問と答弁は、市議会ホームページの録画中継で視聴できます。



二次元コードをスマートフォンのQRコードリーダーで読み取ることで、一般質問の録画中継がご覧いただけます。

始良市議会 中継

検索

永池・池島地区

市道の舗装を急げ

市長／舗装改修計画に沿った予算確保に努める



田口 幸一



問 JAファーム重富（永池地区）の思川沿いと池島27号線の市道が傷んでいるが、早急に舗装できないか。

答 市道池島21号線、22号線及び27号線の舗装について現地確認を行ったところ、池島21号・22号線は、現時点において舗装の打替えを行うような劣化ではないと判断している。

一方、池島27号線は、劣化も進んでいることから舗装改修の必要性を十分に認識している。

今後、舗装改修計画に沿った予算確保に努めるとともに、改修までの間は、適切な維持管理に努めていく。



▲舗装が傷んでいる市道池島線

市指定史跡

蒲生城跡周辺の整備を急げ

市長／今後とも維持管理に努める



卓 志成会



問 「始良市観光おもてなし計画」の一つである、蒲生城跡周辺は、いつ頃整備されるのか。

答 蒲生城跡が指定史跡であることから、埋蔵文化財発掘調査が必要となることやシラス土壌、急傾斜地であり再整備に至っていない。

問 城山公園一帯の保全計画として作成する計画はないか。

答 企画部のほうで、近々ここを再整備するような計画を今のところ持ち合わせていない。保全計画のようなものについては今のところ予定はない。



▲樹木が繁茂している蒲生城本丸跡

鳥獣被害対策事業

問 ニホンザルの生態調査分析結果と今後の取り組みについて問う。

答 群れの調査結果は、性別の不明な子ザルが多く、頭数が増えていると考えられる。

今後は、地域と行政の役割を明確化し、協働で被害防止対策に取り組む。

図書館

基本理念は何か

市長／出合いを広げる



吉村 賢一
市民くらぶ



問 図書館に対する基本理念と、加治木で新設する目的は何か。

答 「出合いを広げる、生きがいを高める、希望の未来をふくらませる」が基本理念で、「棕鳩十文学記念館等周辺の公共施設の活用及び相乗効果について検討し、各機能の利用者の利便性を図ること」の答申もあり、加治木新庁舎に複合する。

日頃の防災対応準備
問 津波の恐れがある地域には、海抜表示箇所を増やせないか。
答 普段から身近な高い建物や高台等安全な場所を決めておくべきであり、その目安になる海抜表示が低市街地に必要である。



▲棕鳩十文学記念館から加治木総合支所を望む

今後、表示箇所や表示方法など検討する。

問 被災ごみ置き場や運搬の支援体制はあるか。

答 公園、グラウンド、公民館等や未利用工業用地等が候補であり、運搬困難者の支援は、地域住民や消防団、ボランティア等による支援を想定している。

まちづくり

出た声をどう活かすのか

市長／地域と一緒に考え進めていく



鈴木 俊二
市政クラブ始輝



問 かもだ想い通り会との語る会で出た意見にどう活かしていくのか。

答 子ども館は、アンケートを実施し貴重なご意見を頂いた。また、かもだ想い通り商店街の方と意見交換を行い、子ども館などへの具体的な質問や様々なご意見を頂いた。

子ども館の設置を含め加治木地区のまちづくりについては、地域の方と一緒に考えて進めていきたい。

ウイズコロナ時代の避難所運営
問 段ボールベッド等の準備で飛沫感染防止対策は一応取れたが、今以上の安心・安全な避難所を



▲加治木支所パブリックコメントの一例

どのような方針で作っていくのか。
答 感染防止の観点から3密を避けるために受入れ人数は、通常より少なくなる。避難所以外に自宅や親戚・知人宅などへの避難、車中避難などを広報紙やホームページ等で周知していく。

コロナ対策

地域学校協働活動

教育長／工夫と改善で活性化を図る



岩下陽太郎
市政クラブ始輝



問 コロナ禍における地域学校協働活動について、どのように考えているのか。

答 現状では、高齢者の学校訪問等、さまざまな制限がある。

工夫と改善によって学校と地域の活性化を進めてもらうと同時に、子どもたちに対して「新しい生活様式」を実践してもらうための支援を行っている。

地域住民の来校に関しては、各学校、文部科学省から発出されているガイドラインに基づき、基本的な感染対策を徹底し、3密を避けてもらうための対策に取り組んでいる。また、ゲストティー



▲子どもたちの健全育成には地域の力がかせない(北山小くり拾い)

チャー等による授業や活動は、各学校の教育課程に基づいて実施されるものであり、各学校の判断で行っているが、感染予防対策上、各学校では慎重に判断している。

その他の質問
○新型コロナウイルス感染症に伴う生活支援

防犯カメラ

市長／小学校の通学路

6台の設置場所



萩原 哲郎
志成会



口の鋭角場所の整備と、神社に向かう道路幅員の狭隘場所の今後の対応について問う。

問 傾カミソノ電気様より寄付された、防犯カメラ6台の設置場所を示せ。
答 建昌・始良・西始良・松原なぎさ・蒲生・西浦小学校の通学路に設置する。

問 防犯カメラの数と場所、今後の設置計画は。

答 令和2年7月末現在、一般道路上の5つの駅に12台。交差点などに12台。小学校通学路に2台。14公共施設等に84台の合計110台である。

市民の日常生活の安全を確保するため、地域からの要望を踏まえ、設置の場所や必要性等について検討していく。

問 市内の道路整備
岩剣神社への県道入



▲防犯カメラ設置で犯罪・事故等の未然防止が期待される西始良校区

その他の質問
○市内の公園・施設等の改善対策や駐車場整備と総合運動公園にバス運行

慰労金

市長／今後の国の動向を注視

保育士や幼稚園教諭に



新福 愛子
公明党始良市議団



問 新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、保育士や幼稚園教諭の心身の負担が増している。

子育て支援を支える保育士や幼稚園教諭に対し、慰労金を考えられないか。

答 現在、感染防止用の備品購入などの補助、時間外の消毒清掃のための超過勤務・休日勤務手当の割増賃金のほか、想定外の感染症対策に関する業務手当などの支援に努めている。

慰労金については、今後の国の動向や感染症の状況等を注視していく。

条例施行後の施策

問 「人と動物との調和のとれた共生に関する条例」が本年4月1日から



▲子育て支援の現場で奮闘する保育士

施行された。

今後、どのような施策を講じていく考えか。

答 ホームページ等による周知・啓発を引き続き実施し、保健所や動物愛護団体等と連携しながら、実施可能な施策を調査・研究していく。

その他の質問

○特別定額給付金事業の総括
○コロナ禍における高齢者の健康

公園トイレ

市長／早期整備に努める

水洗化整備進めよ



森川 和美
志成会



問 主な公園のトイレ水洗化は、順調に整備されていると評価する。

特に、松原下自治会内の塩釜公園について、過去の質問では前向きに進めるとのことであった。

今後、未整備の水洗化計画はどのように進めるのか。

答 本市の公園については、トイレを設置している44の公園の内、簡易水洗を含み38の公園が水洗

化されている。塩釜公園ほか5公園が水洗化されていない現状である。

塩釜公園については、平成30年度に県の補助事業である地域振興推進事業を活用し、整備する計画だったが、実施に至らず未整備となっている。今後、調査・研究し、早期整備に努めていく。

その他の質問

○市民所得向上
○高齢者の移動対策
○市営住宅



▲地域が望む水洗化(塩釜公園)

庁舎建設

3庁舎の建設予算は

市長／おおよそ90億円



堂森 忠夫
志成会



問 小林市は、免震工法より建設費用が安くなる耐震工法で建設されたが、どのように捉えるか。

答 その当時の最善策を選ばれたと考えるが、本市の本庁舎は、免震構造を採用する。

3庁舎建設のみの予算は、おおよそ90億円で、財源は86%が起債、5%が国の補助、9%が市の基金と一般財源を想定している。

県総合体育館の誘致

問 県総合体育館建設予定地は、鹿児島市の3候補地が検討を重ねてきたが、現在、白紙状態である。



▲海岸線の広大な空き地への体育館誘致を望む

コロナ対策や経済の活性化等を考慮すると、利便性の良い始良市への誘致活動を図れないか。

答 知事は、これまでの検討を踏まえ、どんな体育館を造るのかを話し合った上で、適地を決めたいとコメントされているので、今後の県の動向を注視する。

財政

現状と今後の対応

市長／持続可能な構造を構築



有川 洋美



問 コロナ禍において、今後、始良市の税収にも影響が出ると思われる。財政の現状、今後の対応を問う。

答 このままでは各基金の枯渇も予想される。市民生活を維持するため、持続可能な構造を構築する必要がある。

問 大型事業（子ども館等）と扶助費について問う。

答 私が推進する事業であり、財政の健全性が崩れないように慎重に取り組む。扶助費は、合併後の10年間で約32億円、1.5倍に増加している。社会保障関係経費の財源は、国としてもその確保に全力をあげてきている。引き続



▲箱物ではなく市民の暮らしに支援を

きの確に対応していく。

その他の質問

- 福祉避難所
- 健康チケット「あいあい」と障害者等温泉保養券使用拡大
- 平和事業

市政運営

10年間の評価を問う

市長／合併効果が出た10年



小山田 邦弘



問 この10年間をどのように捉えているか。

答 県内の市で唯一人口が増加し続け、産業振興も図られた。

職員数を削減した一方、校区コミュニティの創設、コンビニ交付の開始などで、住民生活の向上につながる合併の効果が現れた10年であった。

問 今後は総合計画で示す協働の進化が課題だと思いが、考えを示せ。

答 市民と行政がパートナーとして連携、協力し、まちづくりを進めていくことと認識している。

まず、新型コロナウイルス感染症拡大防止策を最優先する。

また、自然災害から市民を守る対策にも注力し、

市民が安心して暮らせるまちづくりを実現したい。その上で、高等教育機関など重点プロジェクトを協働のまちづくりで取り組んでいきたい。

◀10年を経て、始良市としてのカタチが揃ってきた



学校給食の安全性

地場産小麦の供給

教育長／さまざまな課題が整えば進めていく



堀 広子



問 農産物検査センターが実施した残留農薬検査で、輸入小麦を使ったパンから除草剤の主成分グリホサートが検出されている。安全な国産小麦を使用しているのか。

答 小麦粉は、全て輸入品を使っている。県学校給食会で残留農薬検査の基準をクリアしているの

で安全である。
問 グリホサートは、毒性や発がん性など人体への影響が懸念されている。国の基準の範囲内でも、成長期の子どもには安全といえない。世界各国では規制が広がる中、日本は緩和（小麦は5倍）している。

地場産小麦を供給できないか。



▲学校給食に地場産の小麦を

答 水田が多いなどの課題を含め、農家の方々と取り組んでいきたい。

問 地場産の活用は、持続可能な農業、地域活性化につながる。積極的に進めるべきではないか。
答 さまざまな環境が整えば進めていける。

その他の質問
○学校コロナ感染対策
○LGBT（性的少数者）の支援

校区コミュニティ

今後の支援策

市長／特色ある活性化活動を支援



洋 峯下
市民くらぶ



問 校区コミュニティ協議会設立後、5年が経過する。今後の支援策をどのように考えているか。

答 平成30年度から3年間、各協議会の申請に基づき、1事業10万円、毎年2事業を上限として校区まちづくり事業補助金を交付している。

今後は、より校区の特色ある活性化活動を支援するとともに、多くの市民参加が見込まれる事業へ見直していきたいと考えている。

住宅地の鳥獣被害

問 市民が空き地の有効利用、健康・生きがいづくりの一環で、菜園づくりに励んでいるが鳥獣被害で、すっかり意欲を失



▲コロナ前のあの頃に戻りたい

っていると思うが対策はあるか。

答 住宅地付近での鳥獣被害の対処については、栽培している農作物の種類や被害防除対策の有無などを総合的に判断し、追払いや防護ネット又は電気柵の設置などの、被害防止対策の指導・助言を行い、状況によっては有害鳥獣捕獲など、その事業ごとに適した対応を実施していく。

庁舎建設費

全体でどのくらいか

市長／3庁舎概算合計102億円



志 里和
市政クラブ始輝



問 本庁舎は基本設計が終わり実施設計に入った。加治木・蒲生庁舎は基本計画が策定され、基本設計に入ろうとしている。

答 3か所の複合新庁舎建設費用の概算額をどの位と想定しているのか。

答 本庁舎は、建築工事41億5500万円、電気設備工事9億1000万円、機械設備工事9億3500万円の合計60億円、その他関連工事等として、立体駐車場6億円、既存解体工事1億7000万円、外構工事1億5000万円、監理委託料1億円、合計18億円、本庁舎関連は概算で78億円を見込んでいる。

また加治木・蒲生の建設関連費用は24億円を別

途見込んでいる。
問 建築費については、参考自治体の事例はすべて基礎免震工法である。最初から免震構造ありきだったのではないか。

答 直近の他自治体の建設事例を参考にしており、免震構造に限定して試算したものではない。

参考にした先行自治体例

名称	敷地面積 (A)	新庁舎の規模・構造		建設単価 (万円/㎡)	建設事業費 (百万円)	竣工年 (予定)
		階層数	構造			
浜田市	34,000	5	SRC (基礎免震)	38.2	4,190	H28.10
日南市	60,553	4	RC (一部S) (基礎免震)	42.8	4,990	H30.4
天草市	89,065	3	RC (一部S) (基礎免震)	44.9	4,487	(H31.2)
宇佐市	34,277	6	RC (一部S) (基礎免震)	43.0	5,300	(H32.3)
豊後市	55,751	5	RC (基礎免震)	50.0	4,500	(H32.3)
平均		5		43.8	4,687	

※ 先行自治体の平均建設単価は、430,000円(㎡)
※ すべての自治体が、基礎免震構造

▲表は参考にした自治体例

夢と希望かなう 元気なあいらへ

徹底的に検証!!

新庁舎建設と まちづくり等 調査特別委員会

新庁舎建設とまちづくり等調査特別委員会は、これまで4回開会し、庁舎建設に係る基本的な考え方について、資料に基づき、担当課の詳細な説明を受け議論しました。

本庁舎

免震・耐震構造

問 複合新本庁舎は、50年60年に1度の大事業であり、市民の安全・安心を第一と捉え、庁舎の根源となる基礎構造に関し、多くの質問を投げかけました。

答 免震構造も耐震構造も震度6弱から震度7まで耐え、人命を守ることができるとのことであるが、免震構造を採用した根拠、ポイントとは何か。
答 免震構造は、災害直後も机や書棚等の非構造部材の落下、散乱を防ぎ、復旧支援等の業務の早期執行ができる。
新庁舎を防災拠点施設として位置づける以上、日本で最高の技術を採用したいと考えている。



▲図書館横プレハブ仮庁舎

問 免震構造の場合、直下型の縦揺れに弱いという専門家の意見もあるが、どのように考えているのか。

答 免震構造は縦揺れに弱いと言われているが、年々、改良されつつある。さらに、国の検査機関等が検査をする形になっている。

特別委員会としては、建設費用やランニングコスト(維持管理費)が免震構造は高額になることや、地殻変動により起こる地震の可能性などを研究することも含め、耐震構造への検討も問いかけています。

項目	令和元年度 (2019年度)	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
基本計画	■					
基本・実施設計		■				
建設工事					■	

▲加治木・蒲生総合支所庁舎設計スケジュール

支所

PFI方式が従来方式か

加治木・蒲生両庁舎の庁舎建設については、合併推進債や国庫補助金等の有利な財源を利用し、一般財源の削減に努め、将来への負担を縮小・軽減することとしており、従来方式で令和5年度中の完成を目指しています。
両庁舎の設計・建設・運営等については、当初PFI方式も検討されて

いましたが、初期投資費と維持管理運営費を比較した結果、PFI方式ではなく、従来方式を採用することが、事業の安定化と財源の確実な確保につながると思われるという方向性を確認しました。

問 従来方式が有利だということであるが、どのくらい地元業者がかかわっていただけるのか。

答 PFI方式になると大手企業が受注し、地元業者は下請けになってくる。従来方式であれば、地元業者で施工は可能である。

特別委員会としても、従来方式への理解が深まりました。

※PFI方式とは

民間資金を利用して、民間に施設整備と公共サービスの提供を委ねる手法

※従来方式とは
公共団体が直接施設を整備する手法

庁舎建設にかかる 総事業費

新庁舎建設の総額については、「現在、本庁舎においては基本設計が、加治木・蒲生庁舎においては基本計画が策定された段階であり、今後、実施設計等の作成の中で示したい。」との説明がありました。

特別委員会として、経費削減と早い時期での総額の提示を要望しました。
今後、納得いく内容となるよう進めていきます。



▲解体準備始まる

“80人を超える参加者！”

コロナ禍の中、厳しい財政状況を踏まえ、
身の丈にあった複合新庁舎整備を！
市民と議員の勉強会（4会派合同企画）

未来を見据えた公共施設建設のあり方について

講師／JSC株式会社 代表取締役社長 井口 哲朗氏

8月17日、市議会4会派（志成会・市民くらぶ・公明党始良市議団・市政クラブ始良）は、始良公民館で複合新庁舎とまちづくりについて考える勉強会を開催しました。

講師に、LC（ロークエスト）アリーナの建設で知られる本県出身の井口哲朗氏をお招きし、建築構造コストダウン（特に免震・耐震）について講演をいただきました。

講演の後、防災及び地域の拠点となる公共施設建設のあり方について、多くの参加者から活発な質疑や意見をいただきました。

主な質疑

問 震度7の大地震を想定した場合、耐震・免震構造にどのような違いがあるか。

答 いずれの構造形式においても、建築基準法で要求される耐震性能に違

いはない。震度7程度の地震動に対しても充分耐えられるような構造設計をおこなうため、構造による差異はない。

問 始良カルデラのマグマだまりなどによる大地震の恐れはどのくらいか。

答 防災科学技術研究所の資料によると、始良市は今後30年間で震度6弱以上の地震に見舞われる

確率は3〜6%と非常に低い。

問 建築費用やメンテナンスはどうなるか。

答 免震構造は耐震に比べて工費が5〜15%程度高い。また免震装置の専門技術者による毎年の通常点検と10年ごとの定期点検、地震が発生した時の応急点検が必要である。耐震構造はこのようなメンテナンスは発生しない。

参加者からの意見

○5〜6階建の規模なら耐震構造で充分であり、もっと様々な角度から検討すべきである。

○渡り廊下で連結される2号館や立体駐車場のことを考えると、同じ耐震構造とすべきである。

○コロナ禍と厳しい財政状況の中、極力事業費



○庁舎だけいいものを造っても、災害で被害が想定されるライフラインを考えると、インフラ整備も同時に行うべきである。

○庁舎機能が3地区に分散していることから、特に本庁舎のみの災害対応能力や拠点施設、行政機能にこだわることはない。

を抑える必要があり、免震・耐震構造の建築費の差額やランニングコスト、メンテナンス等についての詳細な金額を示し、よく検討すべきである。

○過去において発生したことのない大地震や想定される地震からして、耐震構造で十分と思われる。

○過去において発生したことのない大地震や想定される地震からして、耐震構造で十分と思われる。



総務 常任委員会

商工会・観光協会・
特産品協会と
意見交換会

委員会
レポート



地域経済

多くの業種で多大な影響

意見交換

委員会 地域経済の現状を伺います。

商工会 春先は飲食業、宿泊業、観光関連事業所にまず影響がでました。いつ収束するかわからない状況でこのままでは、益々影響が大きくなると考えています。今後は、

小売業、製造業、サービス業への影響も考えなければなりません。雇用や賃金の低下も懸念されます。

観光協会 おもてなしで、県内外のお客様に訪問して頂くことにより経済効

果を期待していましたが、かごしま国体やかごしまマラソン等のイベントが延期・中止になり、今後、活動ができるのか心配です。

特産品協会 様々な国県市の施策がありますが、多くは固定費の支払いにまわっていると思います。余裕がないというのが現状です。飲食業の大半は、売上が前年対比70%、80%減少している店舗が多いです。廃業を考えている事業所もあります。

観光協会 おもてなしで、県内外のお客様に訪問して頂くことにより経済効

ウイズ

感染症対策への支援を

コロナ

委員会 コロナ禍の中、今後、求める施策や経済・地域活性化のアイデアをお聞かせ下さい。

特産品協会 より厳しい条件を付けた市独自で発行する感染症防止対策実施宣言ステッカーを発行してほしい。本当に安心してお店を利用できる環境を整えてほしいです。

観光協会 始良の観光をさらに開発していき、近場の方々を訪れて頂けるような仕掛けを考えています。

商工会 市役所の駐車場を開放して、感染症対策や衛生管理を十分行った上で、屋台村の様なイベントをしてはどうか。

特産品協会 旅の醍醐味の一番は食です。その食を皆で盛り上げる事により、観光の振興や地域経済の発展に繋がっていきたいです。また、感染症対策経費やICT整備等への支援を行ってほしいです。

観光協会 ふるさと納税の返礼品を充実させられればと考えます。例えば、始良市に来てもらう観光や体験型のプランを提供することで、他市町村と差別化が図られます。

商工会 団体、市民、議会、行政など一体となつて知恵を出し合い、これまでに経験したことのない現状を乗り越えていかなければならないと思います。



▲厄介物のエイで地域活性化を

まとめ

今回の意見交換会を通して、地域経済は、新型コロナウイルスの感染拡大により、飲食店、観光関連事業者をはじめ多くの事業所等で、多大な影響を受けていると改めて認識しました。

その対策として本市は、事業継続支援金やプレミアム商品券発行などの施策により、事業所等の支援を行っています。

一方で、感染症の収束が見通せないなか、今後、地域の経済、観光のさらなる疲弊が懸念されます。

ウイズコロナの時代に、どのような施策が求められているのか、大変重みなご意見を伺うことができました。

本年4月に施行された「始良市中小企業・小規模企業振興基本条例」の第5条に、議会の役割として、「政策提言に努めるもの」と掲げられています。

議会の職責を果たすべく、引き続き、市民・団体の皆様の声を聞き、政策提言等につなげていきます。

百聞は一見に如かず！？

台風や地震などの自然災害により、市内の道路、農地や河川等で被害があった場合、復旧等の事業が行われています。

市議会でも被害状況を確認し、どのような計画と予算で復旧を行うのか、担当課の説明を受けチェックしていきます。

さらに、今後同じような被害をなくし、市民の生命と財産を守るため、現場でも積極的に確認しています。

産業建設 常任委員会

委員会
レポート

市民の生命と財産を
守るため、
災害状況を確認



現地調査（9月4日）実施の様子



▲松生地区のがけ崩れ現場



▲西浦地区のがけ崩れ現場

議会に提出された書類の内容に疑義がないか、実際に現場の状況はどうなのかを含めて、審査するために様々な角度から、その場で質問等を行っています。



▲白男地区の農道災害現場

工事の費用が高額なもの、早めに復旧しなければならないもの、実際に現場を確認してみないと分からないことも多く、現地調査は大変重要な審査の一つです。

令和2年5月以降、産業建設常任委員会では、約30か所の現地調査を行っています。

市民から付託を受け、皆様からお預かりした税金を無駄なく、そして最大限の効果が出るように調査してまいります。

文教厚生 常任委員会

現場確認を行い、
意見交換会を傍聴

委員会
レポート



継続

陳情

「通いの場」の事業継続を求めて

審査

文教厚生常任委員会は、第2回定例会で提出されていた「通いの場」に関する陳情を継続審査としました。

その後の休会中には委員会での議論ばかりでなく、現地調査を行いました。

また、第3回定例会会期中には行政と運営者の協議の場を傍聴した上で、さらなる知見の集積を求めて引き続き継続審査とし、現在も調査しています。

「通いの場」は、行政内部では地域介護予防活動支援事業といい、介護予防に資するための住民主体の運営による「通いの場」の設置に向けた取組を行う事業とされています。

令和元年度には20箇所あった「通いの場」は、令和2年度には11箇所に減っています。

具体的な活動内容としては、体操・運動、会食のほか、講師を招いての座学や趣味活動を通して

認知症の予防に努めようとするものです。

まずは現場確認

委員会では休会中の調査として、まず「通いの場」がどのように運営されているのかを確認することになりました。

中でも住民主体の活動として市内外で評価の高い松原地区の「通いの場」を訪問しました。

当日はパソコン教室が開催されており、参加者のみなさんは自分で撮影された写真などをパソコンに取り込み、指導者の手を借りながら思い思いの作品づくりをされていました。

また、車座対話や会食の場で、参加者や運営者の方々から聞き取りを行い、地域づくりにおいて



「通いの場」が重要な位置づけにあること、これからの必要性も十分に認識されていることが確認できました。

一方で、この事業の導入時から行政の説明が不十分であったことや、一度も現地確認をしていないなど行政の丸投げのような態度に不満や不信感を強くお持ちであることも理解できました。



協議の場を傍聴

議会に陳情が提出されたこの案件について、行政が運営者のみなさんと協議・連絡の場を設けるということ、委員会は傍聴という形でその場に参加しました。

その場ではこれまでの行政の対応や事前に受けていた質問事項について説明・答弁がなされたあと、リモート参加者も含め今後について意見交換がなされました。

意見交換では、今後も事業継続を望む声が多く聞かれましたが、一方で運営の難しさや地域ごとの課題の違いなどが語られていました。



今後の進め方

運営者や地域ごとに事業の捉え方に違いがあることが判明したため、委員会は第3回定例会でもさらに継続審査とすることにしました。

その違いを確認するために、加治木地区で事業実施されていた元運営者をお招きし、聞き取り調査を行いました。

住民主体ということの捉え方や、運営者としての関わり方の具体的な違いが確認できたため、今後、執行部との協議を経て委員会としての結論を導き出すことにしています。



追跡

あのことは
あんこちゃ
どうなったんでしょうか
いけんになった

議会には、これまで数多くの一般質問等で取り上げられた課題や採択されたままの陳情・請願があります。

市制施行10周年という節目の今年、これらをあらためて見直し、その後行政でどのように判断され、取り扱われているかを洗い直す作業「センタク・プロジェクト」に取り組むことにしました。



10年を経た始良市議会は、積み残された課題を洗い出し、整理し、実現の可能性を再検討し、答えを出していく。



センタク
プロジェクト

まずは、全体を把握しよう！

- この10年間の陳情 & 請願を確認する
- 解決済みのものと未解決のものを仕分ける

実現可能性を話し合おう！

- 任期中で解決できそうなものを選び出してみよう
- 解決できる、できないことの理由を明らかにしよう



公表し、評価を得よう！

- 陳情・請願者への説明会、議会だよりで広報しよう
- 自己満足で終わらないよう、当事者の評価を確認しよう

知恵を絞りだそう！

- 解決には何が必要なのか、どのような努力が必要か？
- 完全解決できるのか？残された課題はないか？

もう一度、一から考えよう！

- 委員長報告や会議録を読み直そう
- 必要に応じて、陳情・請願者や執行部の話を聴こう

なぜ、放置されたのか？ なぜ、実現できなかった？ どうすれば実現できる？ 回答はどうする？ を明らかにしていきます。

募集

議会だよりの表紙のタイトル

市議会では来年度から発行する「議会だより」のリニューアルに伴い、より多くの市民の方から親しんでいただけるような名称を募集中です！



(1) 応募方法

市民の方はどなたでも応募できます。

下記①～⑥を必ずお書きのうえ、郵送、メール、FAXのいずれかでご応募ください。

①議会だよりの名称 ②名称にこめた想い ③住所 ④氏名 ⑤年齢 ⑥電話番号

(2) 選考と掲載

議会広報委員会で選考し決定します。

決定者はお名前をリニューアル号（4月30日発行）に掲載し、図書券を進呈します。

(3) 締切予定 令和2年12月末日



【問合せ先・応募先】 〒899-5492 始良市宮島町25番地「始良市議会事務局」
TEL 0995-65-2332 FAX 0995-65-2372 E-mail gchosa@city.aira.lg.jp

令和2年 第4回定例会は
11月27日～12月18日

傍聴席へどうぞ

車いす席もあります

詳細は、始良市ホームページで確認してください。



表紙写真の説明



▲学校が借りている田んぼで、自分たちで植えたお米の収穫体験をした漆小学校5・6年生。

傍聴席から

- 新型コロナウイルスの状況の中でも子どもの成長の為に伝統行事を規模を縮小してでも触れさせることは、地元愛を育てるためにも必要だと感じた。女性の社会進出が当たり前となる中で、育児の悩み、課題を解消する為にも、昔とは違う形で行政、市民が協力して環境を作っていくことが、重要であると感じた。
- 人口を増加させる一つ的手段として、若者を市外に流出させないために高等教育を考えていることがわかった。また、コロナ禍での教育について、手厚いケアとして、必要な時にすぐ対応する「スクランブルカウンセラー」というものが始良市にあるのだと分かった。また地産地消を給食に取り入れることは良い考え方だと感じた。
- 初めて議会を傍聴しました。この場が議会だよりの基礎になっていることを実感しました。今後、議会だよりの方もじっくり読みたいと思いました。機会があったらまた参加したいと思います。
- 今、話題になっている新型コロナウイルス対策、教育現場の現状、学校給食についての話など、さまざまな分野で話し合いがなされており、勉強になる傍聴だった。自分は鹿児島市の住民で、インターンシップの活動で始良にきているのだが、とても住みやすそうで良いまちであると思う。今日の議論だけでなく、今までの、そしてこれからの議論をしっかり反映させ、今よりもっと良い始良市にしていってほしいと思った。

編集後記

広報広聴特別委員会広報班として昨年度まで任期を務め、今年度からの2年間は広報班副班長を務めることになりました。議会だよりは年に4回発行しています。市民の皆さまに議会活動の様子を、わかりやすく伝えることの難しさを感じています。

議員として、初心を忘れることなく、丁寧に議案審査に取り組み、説明責任を果たしていきたいと考えます。

有川 洋美

編集・発行責任者

議長 東馬場 弘

広報広聴特別委員会

(広報班)

班長 和田 里志
副班長 有川 洋美
委員 新福 愛子
竹下 日出志
峯下 洋
田口 幸一
湯之原 一郎
鈴木 俊二
岩下 陽太郎
松元 卓也
萩原 哲郎